

1 肉用牛肥育における早期出荷技術の開発

(1) 試験研究の目的・背景

- 早期出荷技術は、肥育期間を短縮することで経営効率の向上（飼料費の低減や出荷頭数の増加）が期待される（図1）が、枝肉重量の低下等が懸念され、普及が進まない面も見受けられる。
- 収益性の確保を図るため、早期出荷技術を確立し、肥育経営の安定化を目指す。

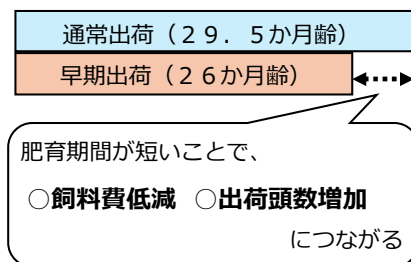


図1 早期出荷によるメリット

(2) これまでの成果

- 早期出荷（26か月齢）での枝肉重量の確保に向けた飼料給与体系の確立

〈試験概要〉

- 肥育前期における飼料中の粗タンパク質含量の強化
→ 筋肉が発達する段階での発育強化を目指す。
- 一日当たりの飼料給与量の増加
→ 肥育期間が短くなっても一定の枝肉重量の確保を目指す。



写真1 早期出荷試験牛

〈試験結果〉

- 肥育期間中の発育が向上
→ 通常出荷と比較して1日あたり0.05kg増加
- 一定の枝肉重量の確保
→ 通常出荷（499.9kg）と比較して13kg減少（2.6%減）に抑制

〈収益試算〉（表1）

- 肥育期間全体の飼料費
→ 通常出荷と比較して85,729円減少（17.2%減）
- 1頭あたりの収益
→ 通常出荷と比較して2,018円増加（6.7%増）
- 100頭規模の場合の試算
→ 年間出荷頭数は12頭増加、年間収益は約50万円増加

表1 収益試算（肥育開始9か月齢）（1頭あたり）

		通常出荷モデル		早期出荷モデル
出荷月齢		29.5か月齢	3.5ヶ月短縮	26か月齢
費用 A		1,239,406	↓	1,125,004
	素畜費 ¹⁾	573,725	—	573,725
	飼料費 ²⁾	497,741	↓	412,012
	その他 ³⁾	167,940	↓	139,267
収入 B		1,269,325	↓	1,156,941
	枝肉価格 ⁴⁾	1,250,250	↓	1,137,866
	枝肉単価 ⁴⁾ × 枝肉重量 ⁵⁾	2,501円/kg × 499.9kg		2,336円/kg × 487.1kg
	その他	19,075	—	19,075
差額 B-A		29,919	↑	31,937
100頭規模	年間出荷頭数	58 頭	↑	70 頭
	年間収益	1,735,302	50万円増益	2,235,590

¹⁾(通・早)令和5年度宮崎県子牛セリ去勢平均価格

²⁾(通)農水省「畜産物生産費統計(R5)」(早)試験期間中(R5.7~R6.11)の飼料単価にて計算

³⁾(通)農水省「畜産物生産費統計(R5)」(早)肉用牛生産費を肥育期間で圧縮

⁴⁾(通)R5年度 宮崎県去勢肥育牛出荷成績 (早)試験牛の取引価格平均

⁵⁾(通)R5年度 宮崎県去勢肥育牛出荷成績 (早)試験牛枝肉重量平均

(3) 今後の取組と成果見込み

- 各地域で早期出荷に取り組む生産者の現地調査を実施
- 行政・普及が連携した試験成果や取組事例を掲載した早期出荷マニュアルの作成及び普及
- 令和7年度から、新たに肥育開始月齢を早期化した試験に取り組む予定



写真2 現地調査